

地図作成に係る独立会計制度について

寺田啓介

以下の資料は齋藤理事が作成して下さった「日本学生オリエンテーリング 地図作成素案」を基に作成しました。

1. 地図作成素案の目的

- 1.1. 学連の地図資産の更新(新規作成?)
- 1.2. 地図作成者への事業の創出

2. 地図作成の概要

地図作成素の概要を図 2-1 に示す。発注には、

- ① 地図作成者からの発意による地図作成(インカレの開催)
- ② 学連側からの発意による地図作成(セレクション等)

の2通りがある。

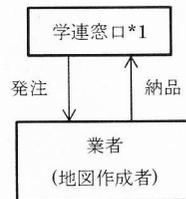


図 2-1 地図作成の概要

次に、地図作成の流れを図 2-2 に示す。

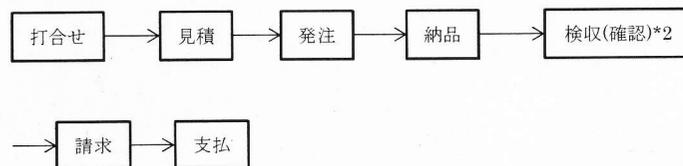


図 2-2 地図作成の流れ

*1: 業者(地図作成者)に対応する学連側の窓口が必要。

*2: 検収も学連窓口が行う。ただし、最初に利用する競技会のイベントアドバイザーの意見を参考にして判断する。

3. 疑問点・問題点など

- 1) 「素案」3-1 に地図の更新とあるが新規地図作成について含めてもよいのではないか
- 2) 事業の支払額について妥当性の判断は?
- 3) 学生大会開催の申し出について
- 4) 現在、学連が保有している地図の更新(修正調査)についてはどうするか。練習会などでの利用に大きく差し支えるだろう修正箇所があると判明した場合に、修正をすぐに行える案を盛り込む(e.g. 予算執行の決済は報告書で可能(限度額設定))。
- 5) 渉外についてどのような位置づけをとるか。渉外面での費用、責任など。
- 6) 地図の著作権収入について

4. 今後の課題